

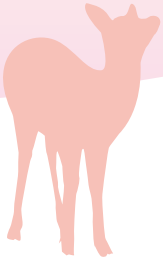


まほろばだより

2014
Autumn
vol.10

公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

第10号



Contents

- ① 「医師のキャリアを考える」ワークショップを開催しました
- ② 女子中高生の理系進路選択支援プログラム「いのちを支える医理系研究って、やってみよう！」を開催しました
- ③ 研究支援員配置申請者の対象が診療助教・研究助教にも拡大されました
- ④ ひらめき☆ときめきサイエンスが開催されました
- ⑤ 内科学第二講座 太田浩世先生が奈良県医師会学術奨励賞を受賞されました
- ⑥ お知らせ
- ⑦ コミュニケーションスキルを学ぼう！
第10回「パワハラを放置すると…」

Report 1

「医師のキャリアを考える」ワークショップを開催しました

7月15日、医学科3年生118名を対象に「医師のキャリアを考える」ワークショップを開催しました。キャリア教育は本センター設立の平成23年度より毎年医学科学生を対象に行っており、今年度より「医学概論」の授業の一環として正規カリキュラムとなりました。このワークショップでは、医師を目指す学生たちがより良い選択とキャリア構築を行うため、早い段階から自身のキャリア、自らが望む社会貢献、目標実現に向けた課題と解決策を仲間や先輩医師とともに考えることを目的としています。今回も奈良県医師会協力の下、ロールモデルとなる先輩医師の講演およびワークショップを実施しました。

第1部 講演『君はどんな医師になりたい？』

今回はロールモデルとなる先輩医師として、本学病理診断学講座大林千穂教授にご講演いただきました。

講演では、厚生労働省や総務省、内閣府、OECD等のデータをもとに日本の医師数や医療体制および女性研究者数の国際比較を示し、国内の都道府県別および診療科別の必要医師数や女性医師数の推移を紹介され、その後ご自身のキャリア形成や専門である病理医の現状について、また臨床現場での研究の重要性についても説明いただきました。

大林先生自身の仕事に対する考えや人生の捉え方についてもお話しいたいただき、これから医師になる学生たちにとっても大変貴重な講演となりました。



第2部 ワークショップ

ワークショップ前半では、「理想とする医師像」、「理想を実現するために今取り組んでいること」、「理想の実現にあたっての心配事や悩み」について、まず個人の意見を挙げ、その後グループ討議を行いました。グループ毎に発表も行い、ファシリテーターの先生方からの質問に答えるなど活発な議論が行われました。

後半は「自分自身の理想とする医師になるために一定期間研究に従事することが重要かどうか」というテーマについて考えました。過半数の学生が研究に従事することは身近なこととは考えず、男女ともに自身の思い描くキャリアに研究が必要との意見は少数でした。

ワークショップの結果、今後は臨床医を目指す多くの学生に対して研究の重要性を伝える授業が必要であること、また将来に対する不安として女子学生の半数がワーク・ライフ・バランスを挙げており、女子学生に対しては今後も多様なロールモデルと接する機会を提供することが必要であることが分かりました。



≫ Report 2 女子中高生の理系進路選択支援プログラム 「いのちを支える医理系研究って、やってみたい!」を開催しました

女性研究者支援センターでは、(独) 科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の採択を受け、女子中高生を対象に医理系研究の面白さを伝え、将来の医理系進路選択を促すためのイベントを開催しています。

このイベントは、医理系分野の多様性を紹介するミニレクチャー、ロールモデルとなる女性研究者による講演、実験・実習、サイエンスカフェの4部構成となっており、近隣大学等の協力も得ながら全5回で開催します。

7月22日 第1回「あなたは重力を感じていますか？」

女性研究者支援センター須崎マネージャーによるミニレクチャーが行われ、医学部卒業後の進路紹介や、医学部で活躍する研究者には医学部以外にも多様な学部出身者がいることなどをお話いただきました。

次に地域健康医学教室岡本希講師による「疫学って何？」というタイトルで疫学とは何か、またご自身の研究内容である健康寿命についても講演いただきました。

実験・実習では、第一生理学教室和田佳郎講師による耳石器の機能について学ぶ実験を行いました。参加した女子中高生はティーチングアシスタントの本学医学科の学生に教わりながら、初めて見る装置での実験に一生懸命取り組んでいました。

この様子は7月22日放送のNHK総合の「ならナビ」及び奈良テレビの「県政フラッシュ」で紹介されました。



8月19日 第2回「あなたを守るミクロの戦士」

近畿大学農学部水産学科永田恵里奈講師にご講演いただき、水産学科への進学を決めた理由や研究の面白さに気づいて大学院進学を決めたこと、研究グループでの調査の様子やご自身の水産学分野での微生物研究の内容を紹介いただきました。

その後、本学微生物感染症学教室水野文子講師による口腔内の細菌を染めて観察する実習を行いました。参加した女子中高生は、自分の口腔内の細菌を採取し、グラム染色を行い顕微鏡で観察し、スケッチを行いました。



9月7日 第3回「外科医になってみよう!」

滋賀医科大学外科学講座貝田知子助教に講演いただき、外科医を目指したきっかけやこれまでの歩み、また手術室へ入るまでの準備の様子や、手術の様子をビデオで紹介されました。

実習では、土庫病院消化器センター横谷先生、本学産婦人科教室吉田講師・重光助教・杉本医員指導の下、糸結びや結紮・縫合、ガウンテクニックを行いました。その後のサイエンスカフェでは、普段接することの少ない外科で働く先生方やティーチングアシスタントの医学科女子学生と熱心に質問をやり取りしていました。



≫ Report 3 研究支援員配置申請者の対象が診療助教・研究助教にも拡大されました

女性研究者支援センターでは妊娠・出産、育児、介護等のライフイベント中の女性研究者に対して研究支援員を配置する取り組みを行っています。これまでの対象者は教員のみでしたが、10月より対象者を拡大し、ライフイベント中の診療助教・研究助教にも支援員配置を行うことになりました。

これまでの対象者

女性教員(教授・准教授・講師・助教)のみ

平成26年10月以降の対象者

女性教員(教授・准教授・講師・助教)
+ 診療助教・研究助教

≫ Report 4 ひらめき☆ときめきサイエンスが開催されました

8月2日、本学産婦人科学教室主催のひらめき☆ときめきサイエンス「命を産み出す子宮とそれを蝕む病～原因からその予防法と一緒に考えてみよう～」が開催されました。この事業は、研究機関で行っている最先端の科学の研究について直に見る、聞く、ふれることで科学のおもしろさを感じてもらうことを目的としています。

女子高校生を対象に子宮と卵巣の機能について学び、シミュレーション機器を用いて子宮で育つ胎児画像を見たり、子宮頸がんの細胞を顕微鏡で観察するなどの実習を行いました。本センターコーディネーターの先生方も参加し、女子中高生に顕微鏡の使い方などを指導しました。



≫ Report 5 内科学第二講座 太田浩世先生が奈良県医師会学術奨励賞を受賞されました

奈良県医師会では、若く、将来性のある医学徒に学術奨励賞を授与されています。この度、本学内科学第二講座診療助教の太田浩世先生が奈良県医師会学術奨励賞を受賞されました。

<太田先生からのコメント>

私は奈良県立医科大学内科学第二講座に入局し、木村教授と生化学講座の高澤教授のご指導のもと、睡眠時無呼吸症候群と糖尿病の関係について研究を行ってまいりました。実験研究により、間歇的低酸素曝露がβ細胞にインスリン分泌機能障害や細胞増殖を引き起こすことが明らかとなり、糖尿病の発症や悪化につながる可能性が考えられました。この度、学術奨励賞という身に余る賞をいただき、ご指導、ご推薦いただいた先生方への感謝の思いでいっぱいです。今後ともこの賞に恥じぬよう引き続き研鑽を積んでいきたいと思っております。



≫ 女性研究者支援センターからのお知らせ

女性研究者支援センターには、男女を問わず職場のパワーハラスメントに関する相談が寄せられています。職場内の優位性を背景にした、脅迫・侮辱・ひどい暴言、無視や仲間外し、仕事の妨害や退職強要はパワーハラスメント行為となります。上司の立場にある方には、自らがパワーハラスメントをしないことはもちろん、部下にもさせないように職場を管理することが求められます。職場の皆様方に今一度、ハラスメント行為は人権侵害である上、ハラスメントを受けた人のみでなく、大学法人にも多大な損失をもたらす行為であることを認識して頂きたいと思っております。

ハラスメントを未然に防ぐためのコミュニケーションスキルについて毎号ご紹介していきます。

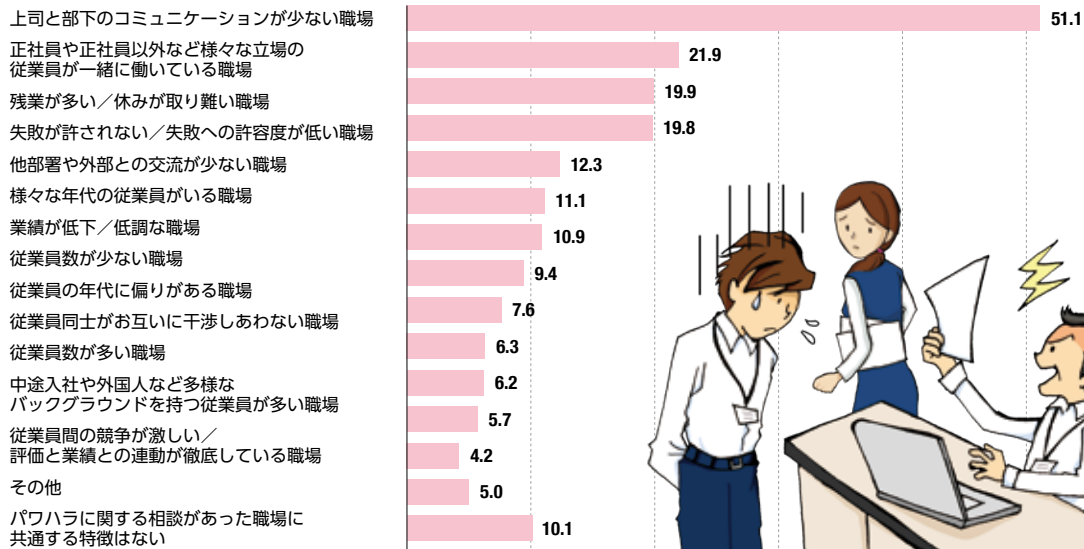
第10回 『パワハラを放置すると…』

これまでどういった行為がパワーハラスメントにあたるのかを紹介してきました。今回は、パワーハラスメントを放置すると職場にどのような影響がでてくるのかを考えてみましょう。

パワハラで職場全体の生産性が低下する

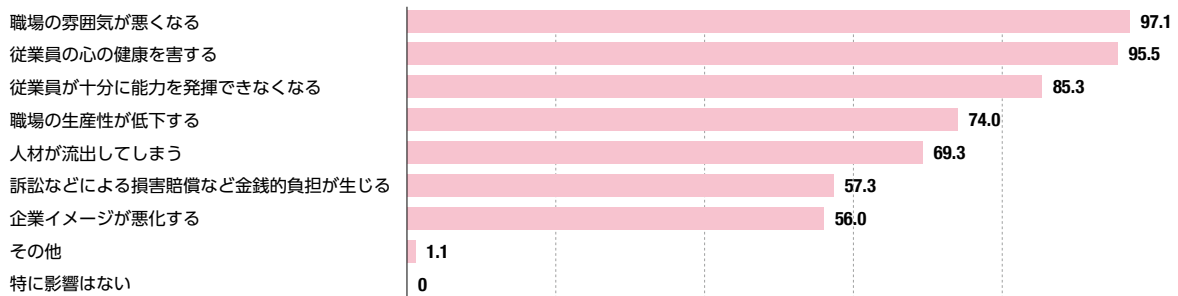
職場のパワーハラスメントを放置することは、被害を受けた人の生産性を低下させるだけではなく、パワーハラスメントを見聞きした周囲の人たちの仕事への意欲を低下させ、職場全体の生産性の悪化を招きます。この他には人材の流出、さらに「不法行為責任」や「安全配慮義務違反」などの法的責任を問われた訴訟による金銭的負担の発生、そして組織イメージの低下と、組織全体に大きな悪影響を及ぼすことも考えられます。

パワーハラスメントが発生している職場の特徴



(回答：過去3年間にパワハラに関する相談があった企業。n=1571)

パワーハラスメントは職場にどのような影響を与えるか



(資料：厚生労働省ポータルサイト「あかるい職場応援団」、回答：n=2937)

職場の一人ひとりが、お互いの人格を尊重し合い、適切なコミュニケーションや支え合いを心がけるようにしましょう。

[編集後記]

女子中高生の医理系進路選択支援イベントも残すところあと2回の実施となりました。9月に実施した糸結び・縫合体験では普段医学生を指導している教員も驚くほどの器用さで皆さん実習をこなしてくれました。5回連続で参加してくれる中高生もいるので、最後まで気を抜かず、充実した内容になるよう精いっぱい努力していきたいと思っております！

[編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL：0744-23-8011(直通)0744-22-3051(代)内線：2525
E-mail：jshien@naramed-u.ac.jp

